

# 塾「組立」をメインに講義 「現寸」や「加工」も学ぶ 東 構 塾 技能者教育の必要性に言及



「第7期中級コース4回目」の講義を開催

東京鉄構工業協同組合  
(東構協)の青年経営者委

員会(幹事長||松田一朗・  
松田鉄鋼業社長)が主催す

る若手経営者・技術者育  
成プロジェクト、「東構  
塾」(塾長||青野弘毅・  
元那須ストラクチャー)  
は2日、東京・中央区の  
東構協会議室で「第7期  
初級コース4回目」の  
講義を開いた。当日は同  
コースを受講する塾生約  
10人が受講。「組立」を  
中心に作業手順や留意点

などを学んだ。

青野塾長は最初に「現寸」をテーマに現寸調書の種別、現寸記号と部材マーク、柱取付マーク、定規の表記、開先表示、めっきの基準、梁の注文寸法、収縮量などを説明。引き続き、「加工」として部材加工、切断加工、開先加工、摩擦面処理、穴明加工、曲げ加工、スカラップ加工など作業手順や基準、管理値などについて解説した。まとめとして資料の受け入れ、罫書き、切断・穴明・開先などの一次加工における作業のポイントと実際の不具合事例を紹介しながら留意点

を述べた。

また、「組立」では溶接方法、資格、溶接材料、裏当て金、エンドタブ、代替エンドタブのほか、角形鋼管柱の製作順序や基準、作業手順などを説明。この中で「組立不具合は技能者の教育などで防ぐことができる。工作図段階で防げる不具合を含めて教育が必要」とし、「組立作業を標準化すれば、作業方法や業務手順が統一され、品質(不具合低減含む)や作業時間のばらつきを少なくできる」と強調した。さらに標準化の目的や作業項目、その要点なども解説した。